

BARCO

BARCO PROJECTION SYSTEMS

BARCO

VISION
708 MULTIMEDIA

R9000747

設置マニュアル

Date:
200498

Rev.:
00

Art No.:
R5975069J

本マニュアルに記載されている事柄は、
改良のため予告なしに変更することが
あります。

BARCO NV 1998 年 4 月製作
著作権所有

商標の権利はその各々の所有者にあり
ます。



目次

1. 安全上の諸注意	1
1.1 製品の安全性について.....	1
1.2 設置時の注意.....	1
1.3 警告ラベルおよびFCC規格の準拠.....	1
1.4 安全に関する一般的な注意事項.....	1
1.5 安全にご使用いただくために.....	1
1.6 設置場所について.....	2
1.7 火災の危険性についてのご注意.....	2
1.8 技術サービス.....	2
1.9 クリーニング.....	2
1.10 再梱包について.....	2
1.11 照明.....	2
2. 開梱と寸法	3
2.1 開梱.....	3
2.2 プロジェクターの寸法.....	4
3. 設置ガイド	5
3.1 設置場所の環境.....	5
3.2 周囲の照明.....	5
3.3 スクリーンのタイプ.....	5
3.4 画像のサイズ.....	6
3.5 プロジェクターの設置場所.....	6
3.6 プロジェクターの設置形態.....	6
4. セットアップ	7
4.1 制御装置へのアクセス.....	7
4.2 偏向の切り換え（スキャン・アダプテーション）.....	8
5. プロジェクター・セットアップ	11
5.1 プロジェクター・セットアップ.....	11
5.2 パスワード・モード.....	12
6. 接続	13
6.1 電源の接続.....	13
6.2 入力電圧.....	13
6.3 電源の入れ方.....	14

7. 設置調整	15
7.1 調整モード(ADJUSTMENT MODE).....	15
7.2 設置モードのフローチャート.....	15
7.3 設置モードのスタートアップ.....	16
7.4 シャイムフラグ調整.....	18
7.5 光学レンズのフォーカスの合わせ方.....	19
7.6 電気フォーカスの合わせ方.....	19
7.7 ラスタのセンタリング.....	20
7.8 CRT投射角の調整.....	21
7.9 プロジェクターのアライメント.....	23
A. シーリング・マウントCM50	25
A.1 BARCO700プロジェクター用シーリング・マウント.....	25
B. G2調整	27
B.1 G2調整.....	27

1 安全上の諸注意

1.1 製品の安全性について

本プロジェクターは、業務用の電気製品を含む情報技術用装置の安全基準である、EN60950、UL1950と、CSA C22.2 No.950に準拠して製造されています。

これらの安全基準は、安全性に関して重要なコンポーネント、材料、絶縁の使用について大切な要求内容を課し、高電圧がかかっているような（ライブ）パーツに触れる可能性のある使用者やオペレータを感電や電気エネルギーによる災害から保護するためのものです。

安全基準はまた、内外の温度上昇、放射線レベル、機械的な安定性と強度、筐体の構造、発火の危険性についても適用されます。

単一障害の条件下におけるシミュレーションを行い、本機が正常に動作しない時も使用者にとって安全であることを保証しています。

1.2 設置時の注意

プロジェクターの操作の前に本書をよく読み、その後もすぐに見ることができる場所に保管しておいてください。

設置作業と、設置時の調整は、バルコ社のサービス担当員もしくはバルコ社認定のサービス代理店にご依頼ください。

所有者の記録

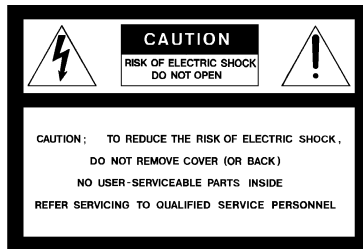
本プロジェクターのパート番号とシリアル番号が本体の左部に記載してあります。その番号を下記に記入しておいてください。本プロジェクターに関して、バルコ社もしくはバルコ社認定の代理店に連絡をする場合はこの番号が必要になります。

パート番号 (PART NR.) :

シリアル番号 (SER. NR.) :

販売代理店 :

このステッカーあるいはスクリーニングがプロジェクター、またプロジェクター内部の部品にある場合は、バルコ株式会社認定のサービス担当員以外は開かないで下さい。



三角の中に矢印付きの稲光があるこの記号は、この内部の部分は感電の危険性があることを使用者に知らせるためのものです。



三角の中に感嘆符があるこの記号は、このプロジェクターの操作またはサービス、あるいはこの両方のための重要な説明が、技術資料に記載されていることを使用者に知らせるためのものです。

1.3 警告ラベルおよびFCC規格の準拠

警告
火災または感電などの危険を防止するため、このプロジェクターを雨や湿気にさらさないでください。

米連邦通信委員会 (FCCの声明文)

本プロジェクターは、FCC規格のパート15によるクラスAデジタル装置の規格に準拠していることを検査し確認されています。この規格は、機器を商用環境下で操作したときに、他に悪影響を与えないように合理的な防護策を施すように規定したものです。この装置は高周波エネルギーを発生および使用し、それを放射することがあります。設置説明書に従って設置、使用されない場合は、無線通信に有害な影響を与えることがあります。この装置を住宅地域で使用するときは、有害な妨害が発生することがあります。その場合は、使用者の負担でその妨害を防止することが求められます。

注意： FCC規格のパート15とEN55022に準拠するため、シールドケーブルを使用してください。

1.4 安全に関する一般的な注意事項

- 操作をする前に、安全と操作に関する指示をすべて読んでください。
- 説明書は将来の使用のために必ず保管しておいてください。
- プロジェクターおよび説明書にある警告は必ず守ってください。
- プロジェクターの操作と使用に関する指示には従ってください。

1.5 安全にご使用頂くために

1.プロジェクターは、AC電源に接続してください。電圧は下記の通りです。

BARCOVISION 708 MULTIMEDIA

Art.No. R9000747(120V AC)

電圧を上記以外に変える場合、また電源のタイプが分からない場合は、販売代理店にご連絡下さい。

2.このプロジェクターには、接地用ピンがある3線式プラグが付いています。このプラグは、接地型の電源コンセントにのみ差し込めます。これは、安全性のための機能です。コンセントにプラグが差し込めない場合は、電気工事技師に連絡し、適合するコンセントに交換してください。接地型プラグの目的を無駄にしないでください。

お客様への警告：

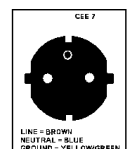
このプロジェクターは、必ず3線式のAC電源ケーブルで接地してください。

(付属の電源ケーブルが適切でない場合は、販売代理店にご相談ください。)

A. CEE 7プラグ付きAC電源コード

電源コードは、次のように色分けされています。

- 緑色と黄色： アース（安全接地）
- 青色： ニュートラル
- 茶色： ライブ



1. 安全上の諸注意

- 電源ケーブルの上には、何も乗せないようにしてください。また、ケーブルが踏まれるような場所にプロジェクターを設置しないでください。
ケーブルを抜くときは、プラグを持って引き抜いてください。ケーブルは、引っ張らないでください。
- 延長ケーブルを使用する場合は、その延長ケーブルに接続されている機器の定格電流の合計が延長ケーブルの定格電流を超えないようにしてください。さらに、壁のコンセントに接続されている全ての機器の電流合計が15アンペアを超えないようにしてください。
- プロジェクター本体の隙間などから異物を中に押し込むのは絶対やめてください。危険な電圧点に接触したり、部品がショートしたりして火災や感電の危険があります。
- プロジェクターには、決して液体をこぼさないでください。もし、液体や異物が中に入った場合は、電源を切り電源ケーブルをコンセントから抜いてください。バルコ社認定のサービス担当者が検査をした後でなければ、電源を入れて操作をしないでください。
- 雷が発生しているときや、長期間に渡って放置したり使用しないときは、プロジェクターの保護のために電源ケーブルをコンセントから抜いてください。こうすることで、雷やAC電源からのサージによる被害を防止できます。

1.6 設置場所について

- プロジェクターは、不安定な台車、スタンド、テーブルなどの上には置かないでください。プロジェクターが落下し、破損することがあります。
- プロジェクターを、水の近くで使用しないでください。
- プロジェクター本体、その後部や下部の隙間や開口部は、換気用です。プロジェクターの動作を確実なものにするため、また過熱を防止するため、これらの開口部をふさいだりカバーをしたりしないでください。ベッド、ソファ、カーペット、あるいはこれらに類似するものの上に置くと、その開口部が塞がれることがあるので絶対に避けてください。
- 高温多湿、液体の近く、ほこりの多い場所には決して設置しないで下さい。適切な換気の出来る場所に設置するようにして下さい。

プロジェクターは、ラジエーターや暖房装置の付近や上には絶対に置かないでください。このプロジェクターは、適切な換気ができないような組み込み型や筐体への設置はしないでください。

1.7 火災の危険性についてのご注意

警告
BARCO プロジェクターの周辺には、引火性および可燃性の物質を決して置かないで下さい。

BARCOの製品は、最も厳しい安全基準に準拠して製造されています。本プロジェクターで発生する熱は表面、および通風孔を通して放射しますので、きわめて安全です。しかし、引火物あるいは可燃物を本プロジェクターに近づけると自然発火する可能性があり、火災の原因となります。少なくともフロントプロジェクターの周辺40cm、またリアプロジェクターの周辺10cmには何も置かないようにして下さい。BARCO以外の物に対してはユーザーが責任をもって対処して下さい。また、操作中には決して本プロジェクターにカバーなどかかないで下さい。引火物、および可燃物には近づけないようにして下さい。本プロジェクターを発火の原因となる物からは離し、直射日光を避け、通気の良い場所に設置して下さい。雨や湿気には決してさらさないで下さい。そして、上述の注意事項を厳守して下さい。

火災時には砂、CO₂、あるいは消火器を使用して、電気による火災の場合には決して水は使用しないで下さい。

本プロジェクターはUnderwriter's Laboratories Inc.、Canadian Standard Associationによって定められた規格に準拠し、また、米国およびカナダ政府の適合する規準すべてにも準拠しています。

1.8 技術サービス

プロジェクターの修理は、自分で行わないでください。カバーを開けたり取り外すときに、危険な電圧に触れ感電することがあります。**修理に関しては、すべてバルコ社認定のサービス担当員にご連絡ください。**

次の様な状態のときは、プラグを抜いて、修理の依頼をしてください。

- 電源ケーブルや、プラグが破損したりすり切れたとき。
- プロジェクター内部に液体をこぼしたとき。
- プロジェクターが、雨や水で濡れたとき。
- 操作手順に従って操作しても、正常に動作しないとき。

注：調整を行うときは、説明書にあるものだけにしてください。その他の調整を行った場合は、破損することがあり、それを元に戻すためにバルコ社認定サービス担当員による長時間の作業が必要になることがあります。

- プロジェクターを落としたときや、本体が破損したとき。
- プロジェクターの性能が著しく変化し、修理が必要と思われるとき。

交換部品 — 交換部品が必要なときは、必ずバルコ社製の交換部品もしくは元の部品と同じ特性を持つバルコ社指定の交換部品を使用してください。指定以外の交換部品を使用すると、性能や信頼性が低下したり、火災、感電、その他の危害が発生することがあります。指定以外の交換部品を使用した場合は、保証が適用されません。

安全点検 — 本プロジェクターの修理・点検完了時に、バルコ社認定のサービス技術者にプロジェクターが正常に動作することを確認してもらってください。

1.9 クリーニング

クリーニングをする前に、必ずコンセントからケーブルを抜いてください。液体クリーナーや、エアゾールクリーナーは、使用しないでください。プロジェクター外部のクリーニングには、濡らせた布を使用してください。

プロジェクター本体をいつも新品のように綺麗しておくには、定期的に柔らかい布で汚れを拭き取ってください。がんこな汚れは、薄めた中性洗剤で軽く濡らせた布で拭き取ってください。シンナーやベンジンのような強い溶剤や、浸食性のクリーナーは本体キャビネットを傷めることがあるので、絶対使用しないでください。

プロジェクターのレンズの光学的性能と解像度を最高にするために、レンズには特殊な反射防止コーティングが施されていますので、レンズには触れないようにしてください。レンズの埃を取り除くには、柔らかな乾いた布を使用してください。濡った布や、洗剤、シンナーは使用しないでください。

1.10 再梱包について

出荷時のダンボール®と梱包材料を、保管しておいてください。発送する必要が生じたときに、重宝します。再梱包は、最初に送られてきた通りに行ってください。

1.11 照明

投影される画像の品質を最高にするために、スクリーンに当たる周囲の照明や光を必要最小限にすることが大切です。

プロジェクターとスクリーンを設置するときは、スクリーンに周囲の光が直接当たらないように注意してください。直射日光や蛍光灯による余分な光のスクリーンへの写り込みが無いようにしてください。

適度な照明をするために、白熱球のスポットライトや調光器などの使用をお勧めします。可能であれば、プロジェクターを設置する部屋の床と壁も、光を反射しない黒っぽい表面にするよう配慮してください。明るい表面は、周囲光を反射・散乱するので、スクリーンに投影される画像のコントラストが弱められることとなります。

2

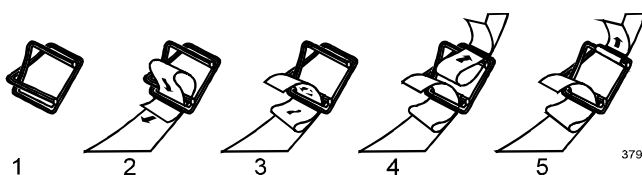
開梱と寸法

2.1 開梱

下図に示してある梱包用バンドの一端を引っ張り、クリップを外します。
プロジェクターを、出荷用のダンボール箱から取り出します。



出荷用のダンボールと梱包資材は、保管しておいてください。将来の出荷時に必要となります。出荷するときは、プロジェクター保護のため、入荷時と同様に梱包してください。梱包用バンドは、下図のようにしてクリップ留めしてください。

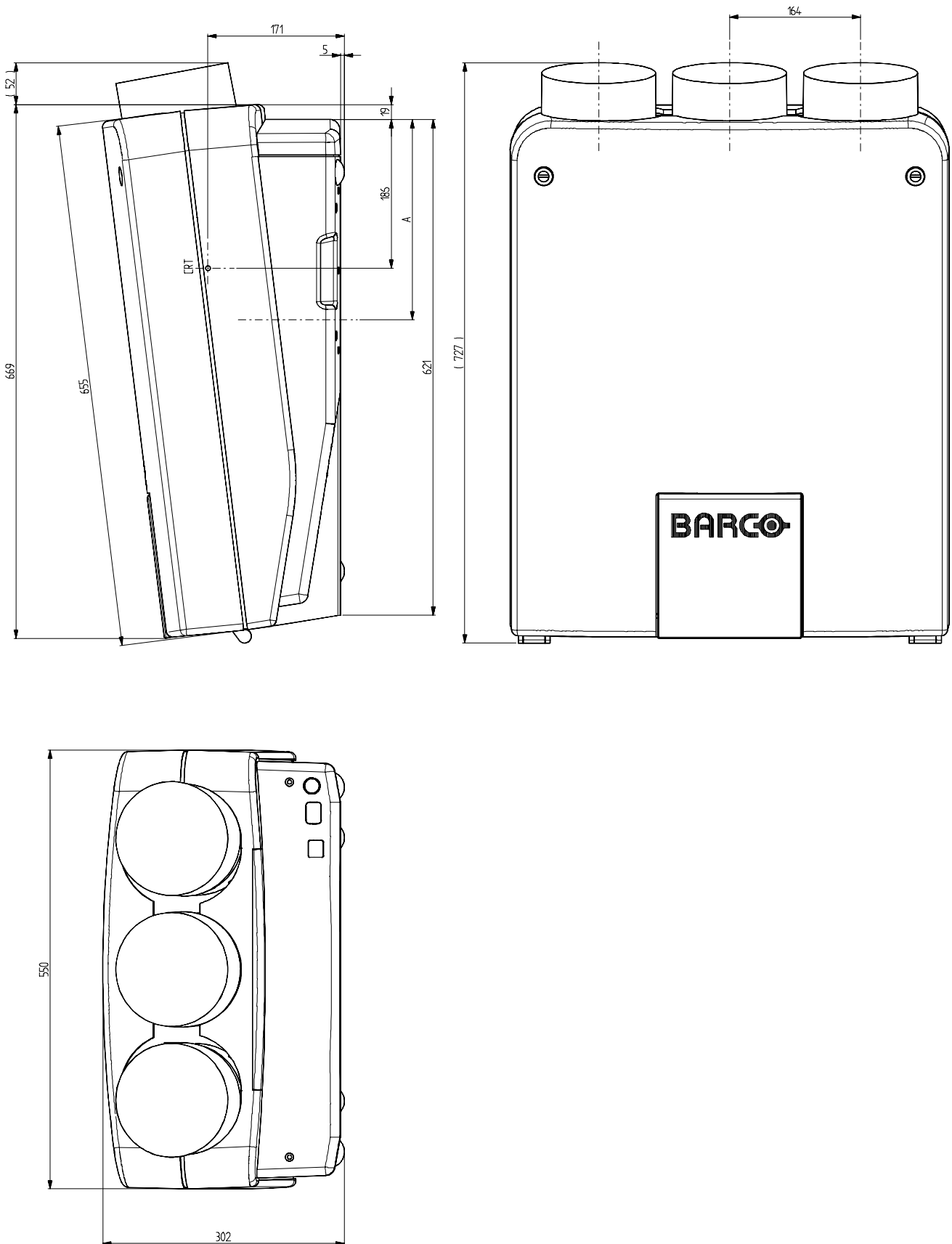


出荷用ダンボールの内容物は、以下のとおりです。

BARCOVISION 708 MULTIMEDIA	1
リモートコントローラー RCU+9Vバッテリー	1
CEE7プラグ付き電源ケーブル	1
オーナーズマニュアル	1
設置マニュアル	1

2. 開梱と寸法

2.2 プロジェクターの寸法 (単位mm)



3

設置ガイド

プロジェクターシステムを最も有効に使用するためには、画像のサイズ、周囲の照明、プロジェクターの設置場所、スクリーンのタイプに十分な注意を払うことが大切です。

3.1 設置場所の環境

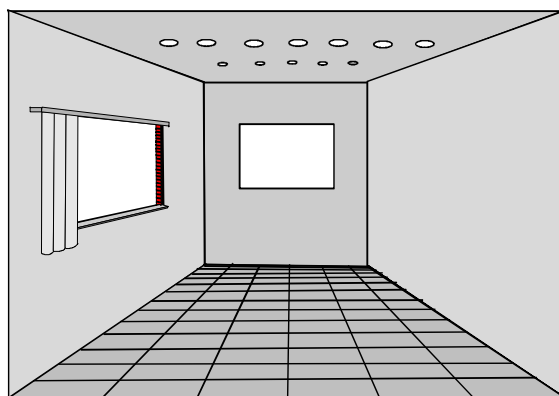
プロジェクターシステムは、放熱器やエアダクトなどの熱源の近く、直射日光の当たる場所、埃の多い場所、湿度の高い場所には設置しないでください。室温は上方では高くなるので、プロジェクターの設置場所での温度が過度にならないように注意してください。

3.2 周囲の照明

すべて部屋の照明は、直射日光や日光による間接的な光と照明設備とによって成り立っています。

周囲の照明の程度によって、画像がどの程度の明るさで見えるかが決まりますので、スクリーンへ直接外光や照明が当たらないようにしてください。

プロジェクター使用中は、スクリーンに対面する窓を、光を通さないカーテンで覆ってください。プロジェクターシステムを設置する部屋の壁と床は、光を反射しない材質にしてください。埋め込み式の天井照明にしたり、照明を暗くする装置の使用が大切です。過度な周囲の光は画像を見え難くさせます。つまり、画像の最も暗い部分と最も明るい部分のコントラスト差が少なくなるということです。スクリーンのサイズが大きくなればなるほど、この点が重要になります。通常の読み書きに必要な程度に照明を暗くするようにしてください。限られた小さな部分を照明するためにスポットライトを使用することで、スクリーンへの影響を最小限にすることができます。



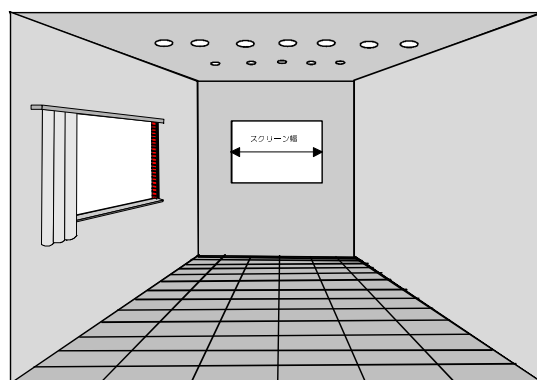
3.3 スクリーンのタイプ

プロジェクター用のスクリーンは、大きく分けて2種類あります。前面からの投射用と、背面からの投射用です。

スクリーンは、その表面に投射される光をどれだけ反射（背面投射の場合はどれだけ放射）するかによってクラス分けされます。ここで、スクリーンの「ゲイン」という用語が使用されます。前面および背面投射用のスクリーンは、ゲインによって分類されます。スクリーンのゲインには、ゲイン1(X1)の白色マットスクリーンから、ゲイン10(X10)がそれ以上のアルミスクリーンがあります。高ゲインか低ゲインかのスクリーンを選択するのは、主に好みによりますが、それ以外の要素としては、視角があります。

どのようなスクリーンを選択するかは、視聴者の位置と可能な限り高ゲインのスクリーンを使用することによります。高ゲインのスクリーンでは、画像は明るくなりますが、視角が狭くなります。

スクリーンについては、お近くのスクリーンの販売代理店にお問い合わせください。



3. 設置ガイド

3.4 画像のサイズ

本機は、幅1.4mから7mまでのアスペクト比4:3、及び16:9の画像を投射するように設計されています。本機は工場出荷時に、スクリーン幅2.4m用にフロント/天吊り設置のプロジェクターとして調整されています。工場であらかじめ設定されている画像サイズを変更するには再調整を行う必要があります。

3.5 プロジェクターの設置場所

正確な設置位置を決めるには、次の距離を知る必要があります。

- プロジェクターから天井まで
- プロジェクターからスクリーンまで

HD145レンズを装備したVISION 708 MULTIMEDIAの正確な設置位置を算出するには、以下の公式を使って下さい。

☆スクリーン幅はHD145レンズ用でプロジェクターからスクリーンまでの距離と修正値を算出する公式

$$PD = 1.21 \times SW + 0.213$$
$$A = 12.95 \times SW - 22.83$$

3.6 プロジェクターの設置形態

天吊り、あるいはテーブル設置。

本機設置の取付機具は、特に本機の機能に適するように設計されているBARCOの製品を必ずご使用下さい。

BARCO天吊り金具

天吊りには、BARCOの天吊り金具をご使用下さい。
(注文番号:R9827990)

この天吊り金具の取付方法を記載したマニュアルは製品に同梱されています。

BARCOプロジェクション・テーブル

プロジェクター用床置き台で、高さが可変します。
(注文番号: R9827440)

図中の記号の意味は下記のとおりです。

B = 天井とスクリーン上端の距離。

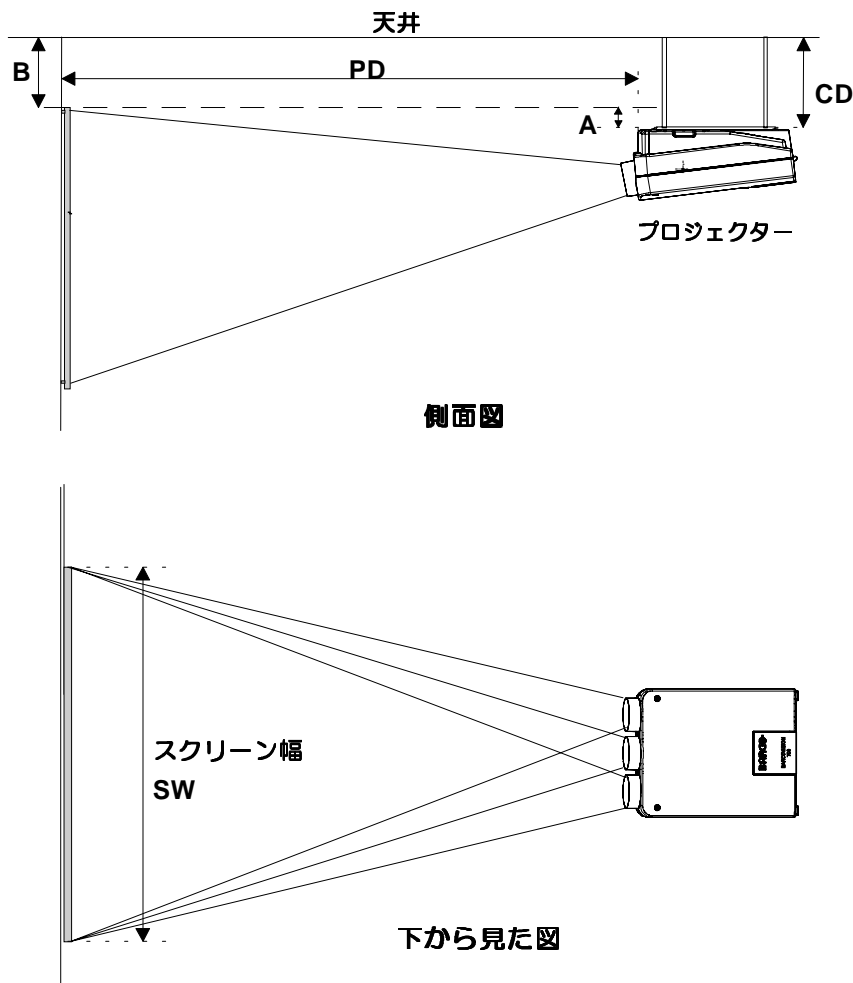
A = 修正値で、正確な設置位置を決めるために、Bに付け加えられる値。
(A値は負の値になることがあります)

CD = プロジェクターと天井の距離。

CD = A + B (値が負の場合、天井とスクリーン上端の距離を広げ、スクリーンを下げてCD値がゼロか正の値になるようにする)

SW = スクリーンの幅。

PD = スクリーンとプロジェクターの距離。



4

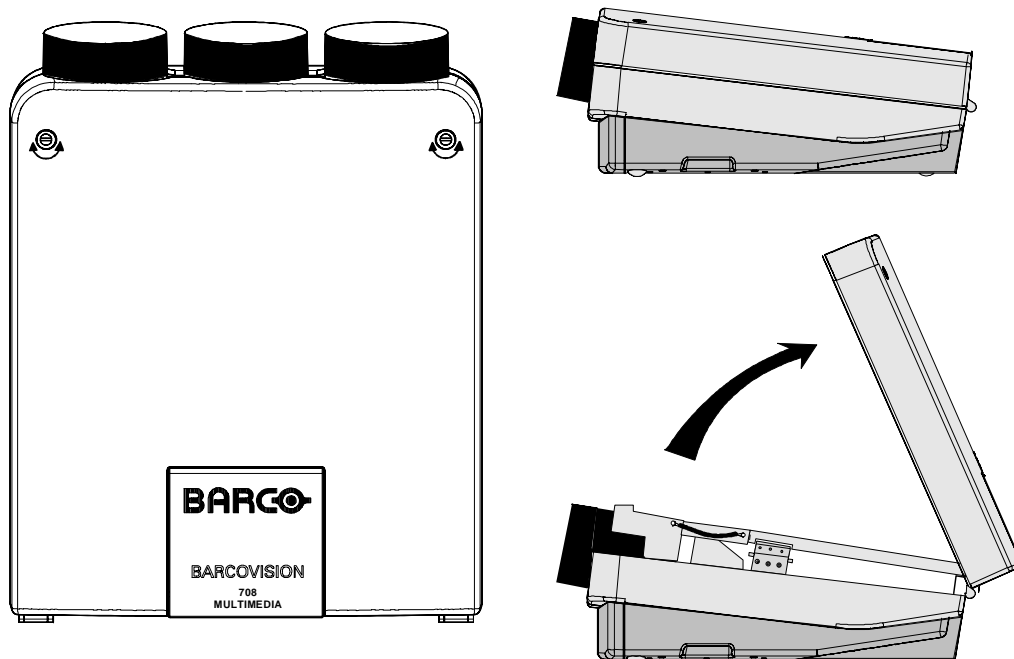
セットアップ

4.1 制御装置へのアクセス

カバーの開け方

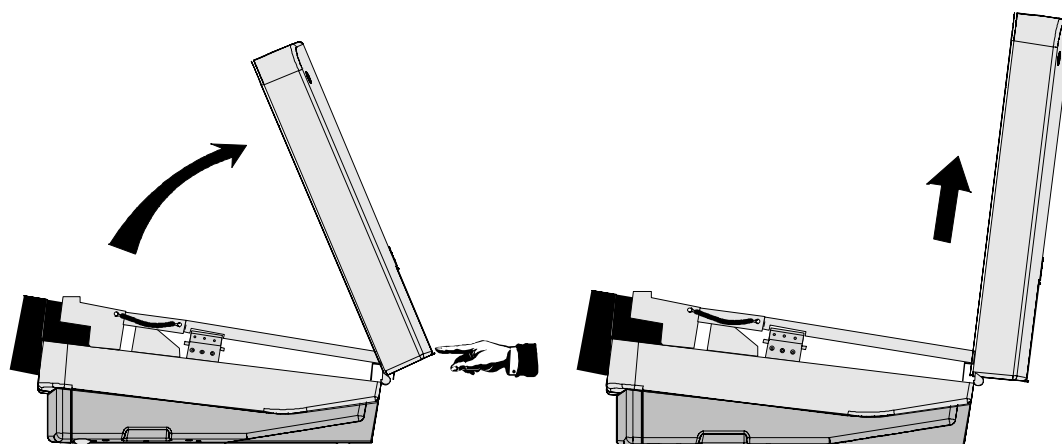
本機をセットアップ、または設置する間、トップカバーを開ける必要があります。手順は次の通りです。

1. カバー先端（レンズ寄り）の左右にあるロックスクリューをコインかドライバーで反時計方向に回します。
2. カバーを持ち上げます。
3. カバーには支えがありませんので、手で支えて下さい。



設置の間は、むしろトップカバーを取り外した方が便利です。手順は次の通りです。

1. カバーを約60°まで開きます。
2. カバーの後端を前方に向かってヒンジが外れるまで押します。90°開いたら上に持ち上げて外します。



カバーの取付け

カバーをヒンジにひっかけます。トップカバーを約30°倒し、ヒンジにはまるまで後方に引きます。カバーを閉じて、コインかドライバーでロックスクリューを時計方向に回します。

4. セットアップ

4.2 偏向の切り換え（スキャン・アダプテーション）

偏向は水平と垂直偏向コネクタとコンバージェンス・コネクタを調節することで切り換えることができます。

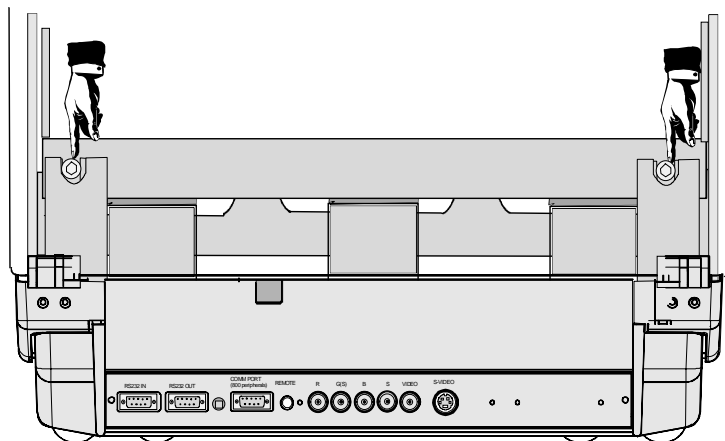
偏向を変更するには、本機のカバーを開けて、シャシーを引き上げる必要があります。

警告

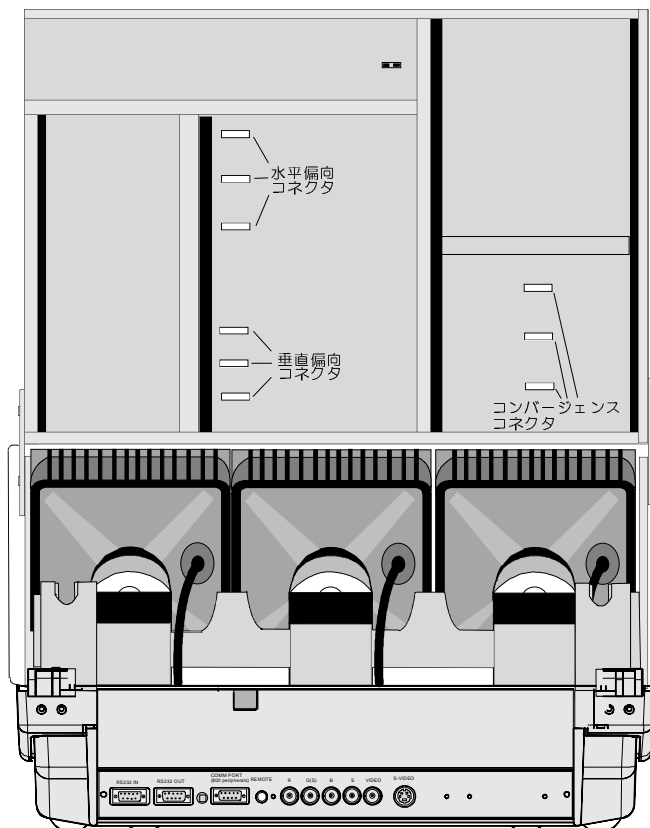
偏向の方向を変える前に、プロジェクターの電源をOFFにして、電源コードを抜いて下さい。

偏向コネクタとコンバージェンス・コネクタへのアクセス

1. トップ・カバーを開けて、シャシーを引き起こします。
2. シャシーを開けるには、下図のように左右の止めネジを緩めます。



3. シャシーを本機の前面方向に引き上げ、ロックが掛かるようにします。



A. 水平偏向の切り換え

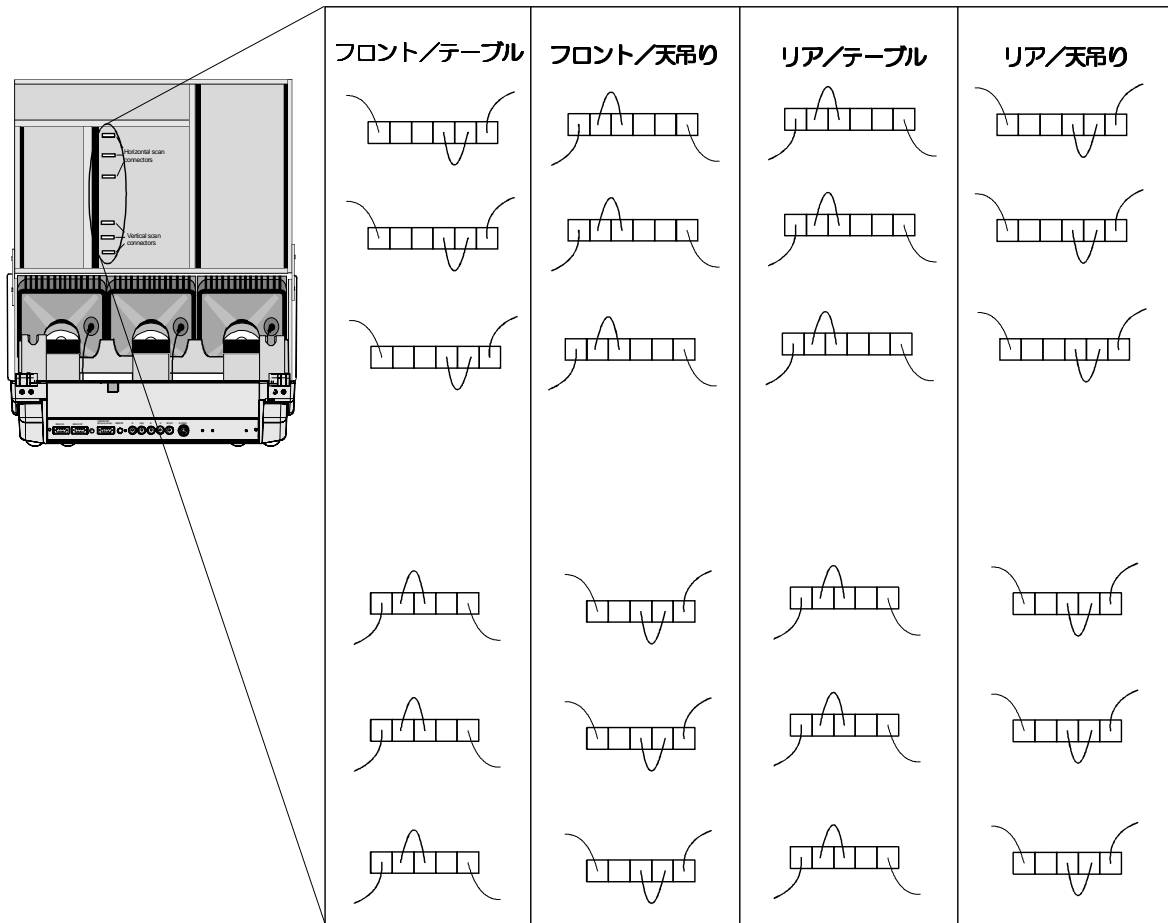
水平偏向コイル・コネクタは3つあります。水平偏向を変える場合、3つのコネクタすべてが同じ位置に配置されているのを確認して下さい。プロジェクターの設置形態に対応したコネクタの位置を参照して下さい。

B. 垂直偏向の切り換え

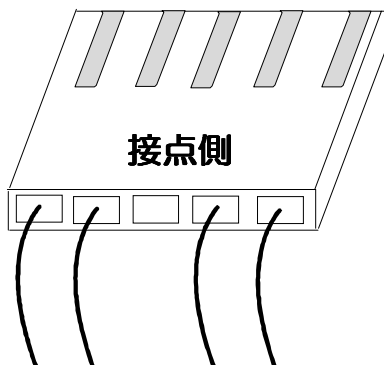
垂直偏向コイル・コネクタは3つあります。垂直偏向を変える場合、3つのコネクタすべてが同じ位置に配置されているのを確認して下さい。プロジェクターの設置形態に対応したコネクタの位置をご参照下さい。

コネクタを上から見た図

上の3つのコネクタは水平偏向の切り換え、下の3つのコネクタは垂直偏向の切り換えです。



C. コンバージェンス・コネクタの切り換え



コンバージェンス・コネクタは3つあります。設置形態を切り換える場合、3つのコネクタの位置を変える必要があります。

フロント/テーブル、あるいはリア/天吊りの場合、シャシーを開けて、コネクタの接点側を上向き（CRTから遠くなる方向）に差し込みます。フロント/天吊り、あるいはリア/テーブルの場合、接点側がCRTに近くなるように差し込みます。

4. セットアップ

偏向切り換え後、シャシーとトップカバーを閉じます。電源コードをコンセントに差し込みます。

注記：

テーブルから天吊り、あるいは天吊りからテーブルに切り換えた場合には、画像のジオメトリーとコンバージェンスの再調整が必要です。

正確なコネクタの位置の確認

注記： この確認は電源接続後にしか行うことができません。まずは、プロジェクターのセットアップと接続を引き続き行い、この確認手続きに戻ります。

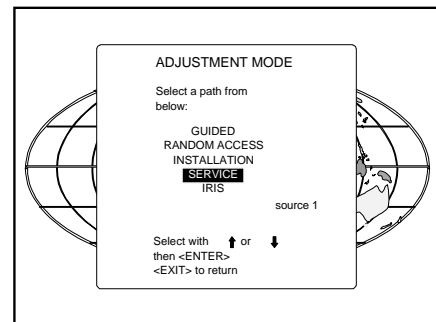
本機の電源を入れて、ADJUSTキーを押し、'ADJUSTMENT MODE'を起動させます。コントロール・デスクでSERVICEを選択して、ENTERキーを押します。サービス・メニューが表示されます。'PROJECTOR SET UP'を選択してENTERキーを押します。'IDENTIFICATION'を選択して、ENTERキーを押します。スクリーン上に本機の設置形態が表示されます。

工場出荷時の設置形態は天吊り/フロントです。

設置形態を確認するには、次の手順を踏んでください。

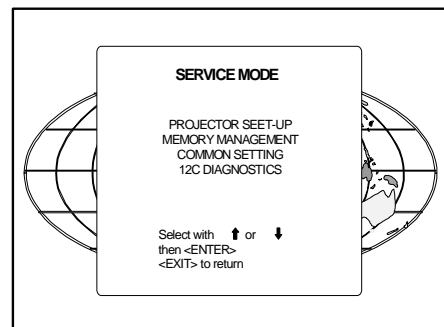
1. プロジェクターの電源を入れる。
2. プロジェクターは最後に選択したソースで起動します。
3. ADJUSTキーを押します。
4. コントロール・デスクで'SERVICE'をハイライト表示させて、ENTERキーを押します。

サービス・モードのメニューが表示されます。

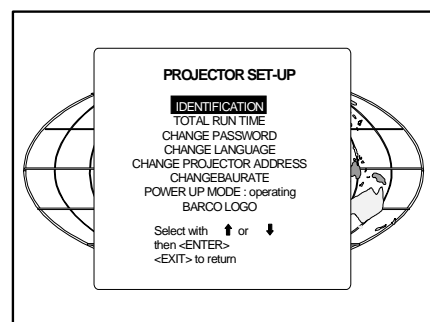


5. コントロール・デスクでPROJECTOR SET UP'を選択して、ENTERキーを押します。

'PROJECTOR SET UP'メニューが表示されます。



6. コントロール・デスクで'IDENTIFICATION'を選択してENTERキーを押します。



IDENTIFICATIONの画面が表示されます。

'Config.'の項に本機の設置形態が表示されます。



5

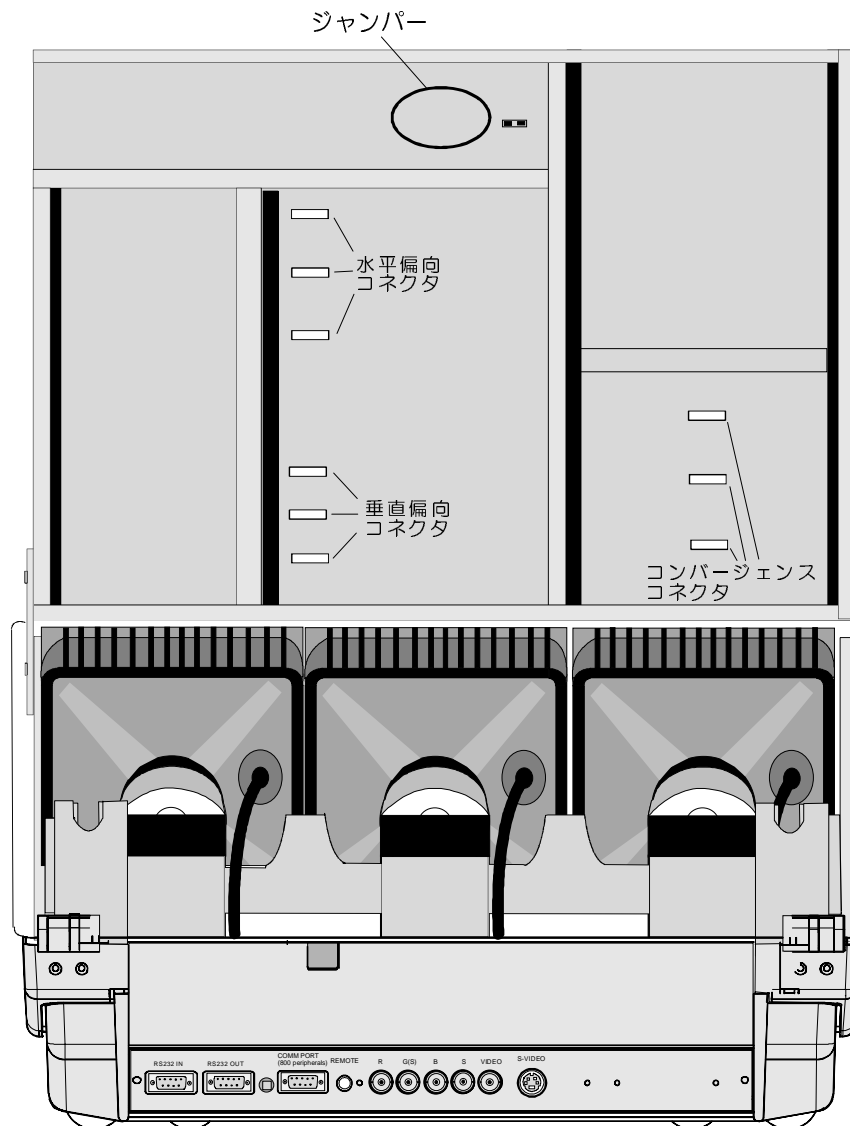
プロジェクター・セットアップ

5.1 プロジェクター・セットアップ

CPUユニットのジャンパーでパスワードモードの設定ができます。

ジャンパーへのアクセス

1. トップカバーを開きます。（「セット・アップ」の章をご参照下さい）
2. シャシーを引き起こします。（「セット・アップ」の章をご参照下さい）



5. プロジェクター・セットアップ

5.2 パスワードモード

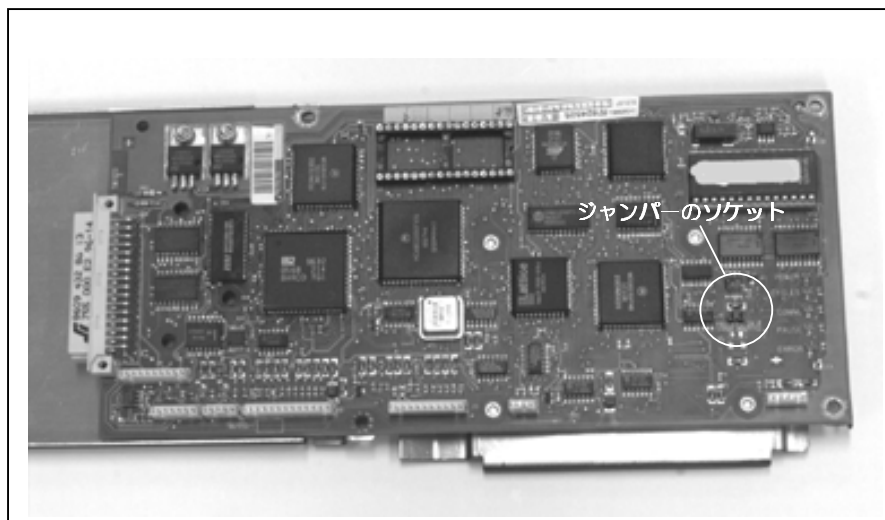
コントローラー・ユニットをジャンパーすることで、重要なプロジェクターの調整はパスワードで保護されます。パスワード機能が使用できる場合（両方のピンにジャンパーが取り付けられている場合）は、ユーザーは特定の調整に入る前に、パスワードを入力する必要があります。

パスワード機能が使用不可の場合、（一方のピンだけにジャンパーが取り付けられている場合）、すべての調整が可能になります。ジャンパーのこの位置は、バルコ株式会社認定のサービス担当者がサービスの間、パスワードを必要としなくてよいためのものです。

ジャンパーの位置

ON: パスワード使用不可

OFF: パスワード使用可

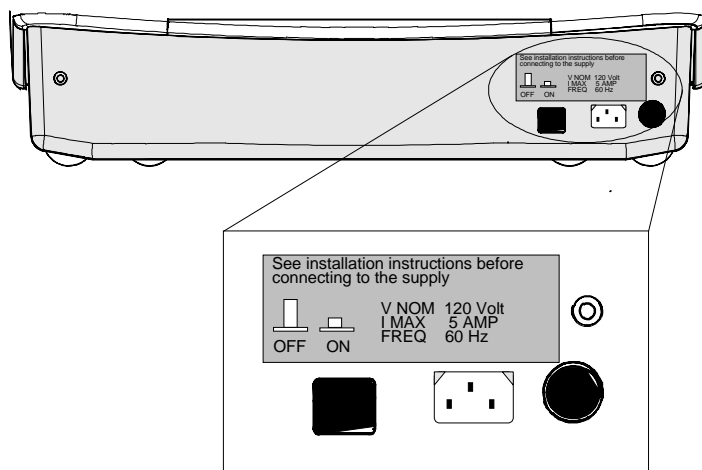


6

接続

6.1 電源の接続

付属の電源コードを、電源コンセントに接続します。プロジェクターの前面にあるコネクタ（オス）に電源コードを接続します。



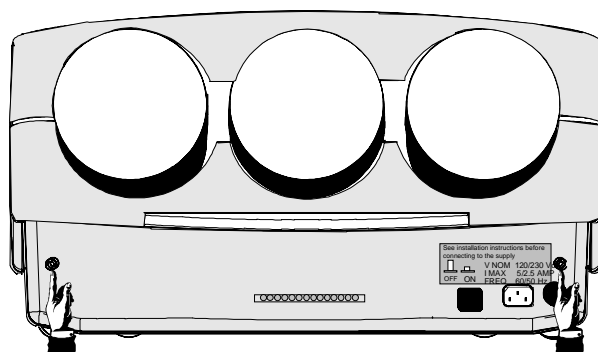
6.2 入力電圧

注意：

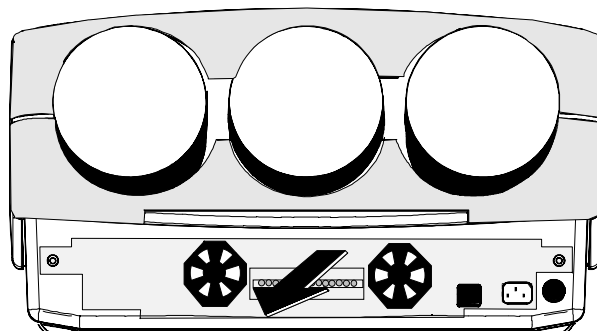
BARCOVISION 708 MULTIMEDIA –R9000741、R9000742、R9000743の工場出荷時の入力電圧は230VACです。

230VACから120VACへ、または120VACから230VACへの電圧の変更ができます。手順は次の通りです。

1. 前面の電源入力から電源コードを抜きます。
2. フロント・パネルを外すには、左右の止めネジを緩め、カバープレートを取ります。

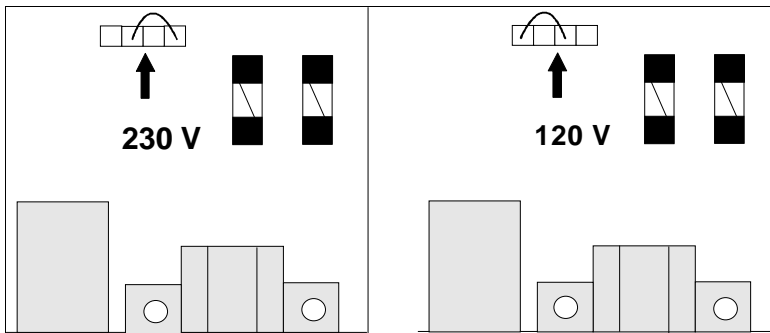
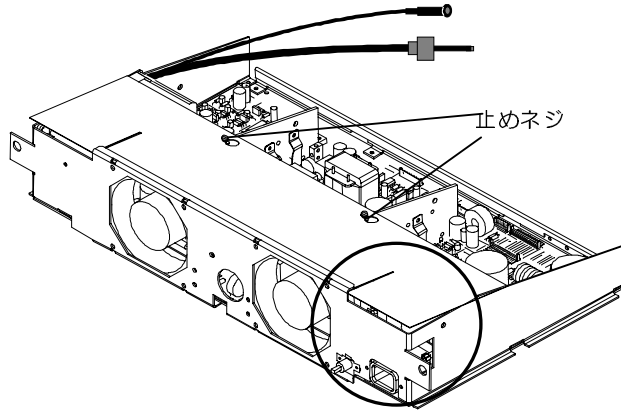


3. モジュールを引きます。



6. 接続

- 保護カバーの左右の止めネジを緩めて、カバーを外します。



- 使用する電圧に応じて、上の図に示したように「パワー・セレクター・プラグ」を引き抜き、再度差し込みます。
- 保護カバーを再度取付け、左右のネジで固定します。
- モジュールを再度差し込みます。
- プラスチックのカバーを元に戻し、左右を止めネジで固定します。

ヒューズ：

警告：発火の危険性を防止するために、次のことを守って下さい。

- ヒューズを交換する場合は、バルコ株式会社のサービス担当者にご相談下さい。
- ヒューズタイプ：2 X T5A/250V（注文番号：R314104）

6.3 電源の入れ方

電源スイッチで電源のON/OFFを切り換えられます。

押した状態： ON

押していない状態： OFF

これでプロジェクターを、コントローラー・ユニット*1の「起動」スイッチの設定により、「操作モード」（画像に表示される状態）または「スタンバイ（待機）モード」で起動させることができます。このDIPスイッチは設定時にバルコ社認定サービス担当員が設定します。このスタートアップ・モードを変更する場合は、バルコ社認定サービス担当員にご連絡下さい。

スタンバイ表示ランプ

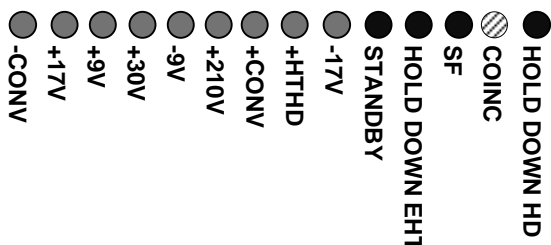
点灯しない状態：プロジェクターが操作モードになっています。

赤色：プロジェクターがスタンバイ状態になっています。

*1 コントローラー・ユニット：

プロジェクター内部のユニットで各種モードの設定スイッチ、及びLEDがついています。

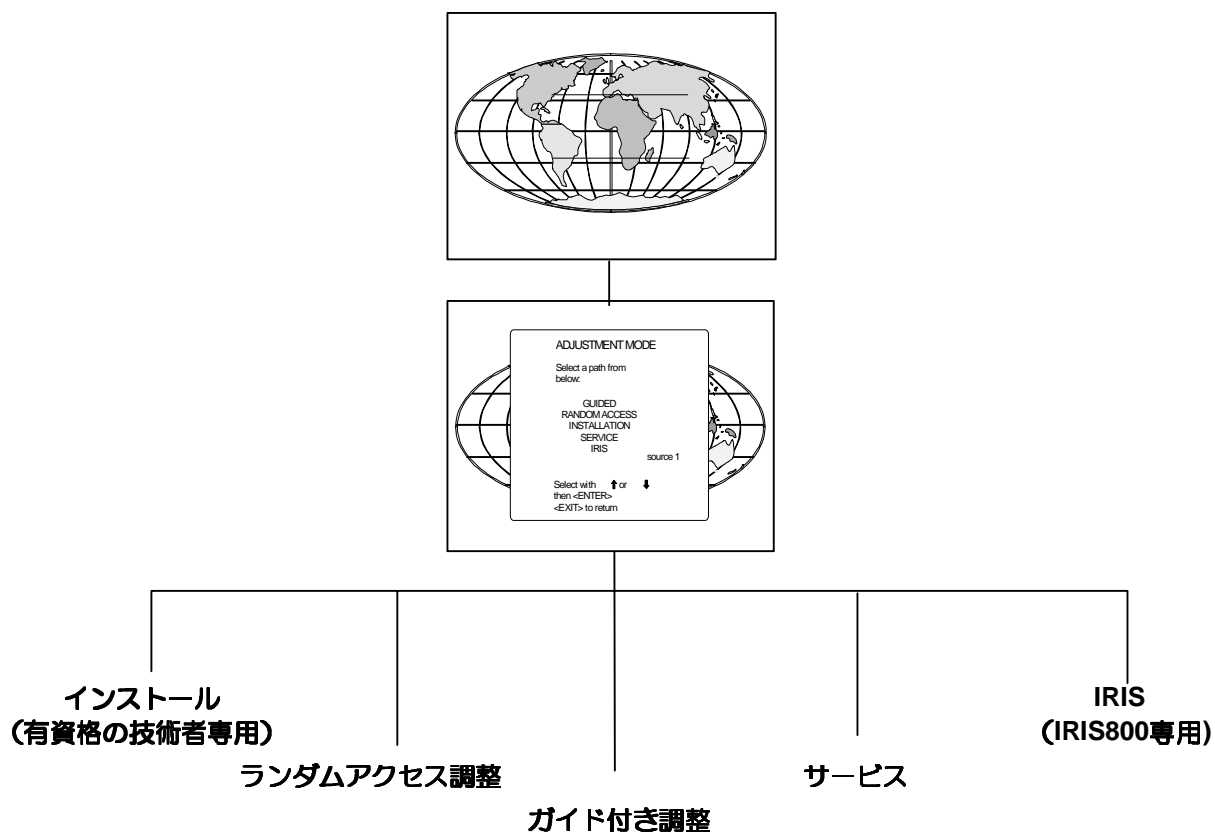
前面プレートのLED



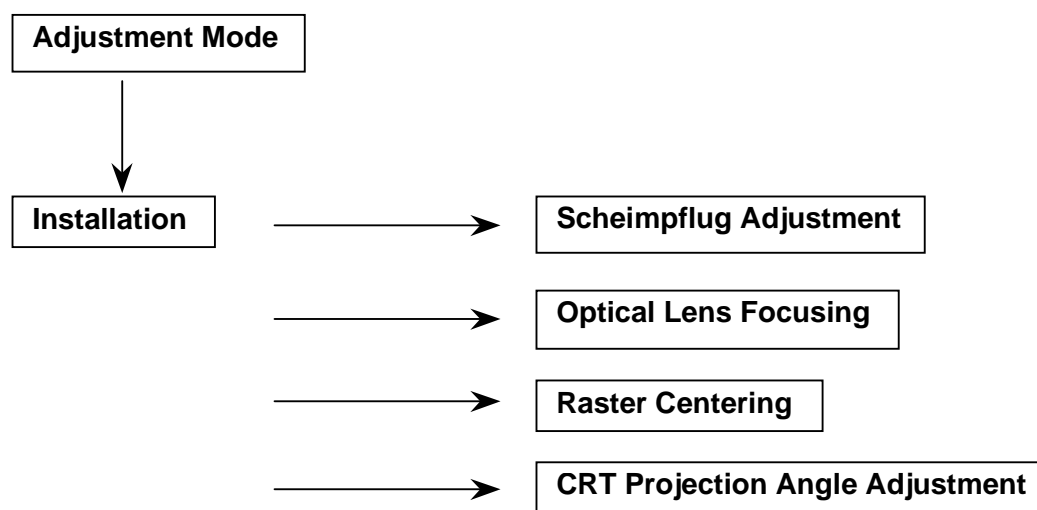
7

設置調整

7.1 調整モード(ADJUSTMENT MODE)



7.2 設置モードのフローチャート



7. 設置調整

7.3 設置モードのスタートアップ

設置モード中は、いくつかの電子的な調整をする必要があります。調整箇所にはアクセスするにはトップカバーを取り外して下さい。（「セットアップ」の章の「制御装置」の項をご参照下さい。）

設置モードに入るには、以下の2通りの方法があります。

a) RCUを使用します。

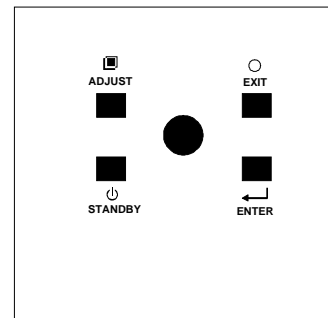
ADJUSTキーを押します。

パス選択メニューが表示されます。

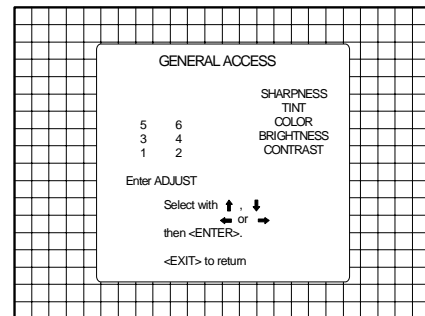
b) 本体上の数値キーを使用します。

ADJUSTキーを押します。

'GENERAL ACCESS'メニューが表示されます。

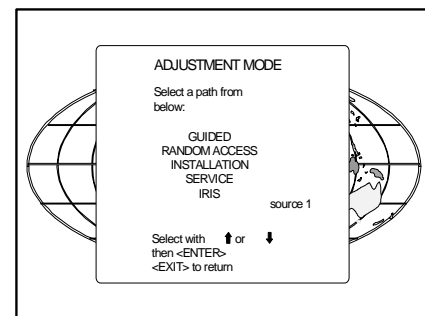


コントロール・ディスクを使用して、'Enter ADJUST'をハイライト表示させENTERキーを押します。パス選択メニューが表示されます。



コントロール・ディスクを前か後ろに押して、'INSTALLATION'をハイライト表示させ、ENTERキーを押します。

ENTER: 引き続きWARNINGを表示します。
EXIT: 操作モードに戻ります。
ADJUST: 操作モードに戻ります。

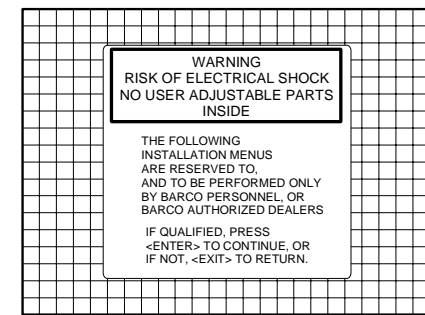


警告がスクリーン上に表示されます。

バルコ株式会社認定のサービス担当者の場合、ENTERキーを押して、設置モードを起動させます。

設置モードに入ると、本機は自動的に15kHz/50Hzの内部パターンに切り換わります。

ENTER: パスワードの入力を求めてきます。
EXIT: パス選択メニューに戻ります。



パスワード・モードがアクティブの場合、パスワードの入力を求めてきます。

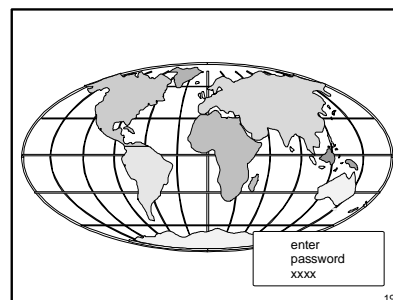
パスワードは4桁です。

a) RCUで本機を調整します。

RCUの数字キーで数値を入力します。

例：2 3 1 9

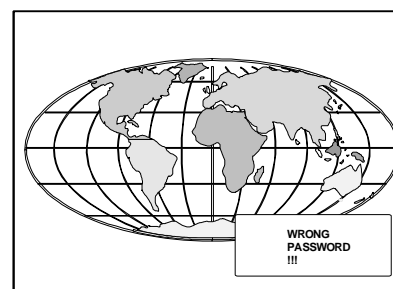
各数字を入力するたびに、画面には「enter password」（パスワードを入力してください）というテキストの下に「X」が表示されます。



パスワードが正しければ、「ADJUSTMENT MODE」にアクセスすることができます。

入力されたパスワードが正しくない場合には、「WRONG PASSWORD !!!」（正しくないパスワードです）と表示されます。プロジェクターは、以前に選択された項目のままになります。

工場プログラムされているパスワード：0000、または1990

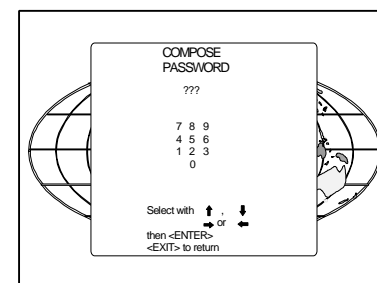


b) 本体上の数字キーで本機を調整します。

「COMPOSE PASSWORD(パスワード作成)」メニューが表示されたらコントロール・ディスクでパスワードの1桁目の数を選択し、ENTERキーを押します。2桁目の数をコントロール・ディスクで選択し、ENTERキーを押します。3桁目と4桁目の数についても同様に操作してください。

パスワードが正しければ、「ADJUSTMENT MODE」に入ることができます。

入力されたパスワードが正しくない場合には、「WRONG PASSWORD !!!」（正しくないパスワードです）と表示されます。



7. 設置調整

7.4 シャイムフラグ調整

シャイムフラグの修正は3つのレンジ内で3管別々に調整することができます。

- レンジ1: 1.4mから1.9mまで、最適なスクリーン幅1.4m
- レンジ2: 1.9mから3.2mまで、最適なスクリーン幅2.4m
- レンジ3: 3.2mから6mまで、最適なスクリーン幅4m

シャイムフラグを正確に設定すれば、レンズのフォーカスが合ってスクリーン全体に鮮明な画像を映し出すことが可能です。

レンジを他のレンジに変えるには、機械的な作業が必要です。

レンジ1

- min. SW: 1.40m
- max. SW: 1.90m

レンジ2

- min. SW: 1.90m
- max. SW: 3.20m

レンジ3

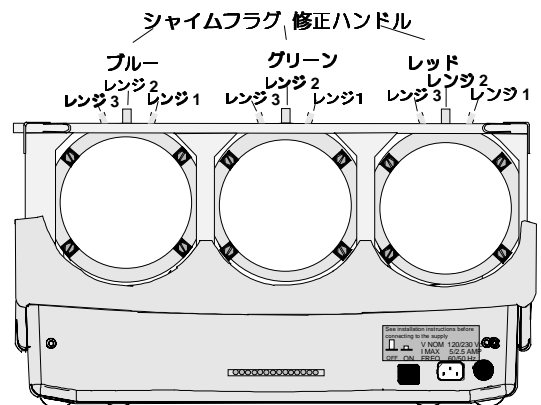
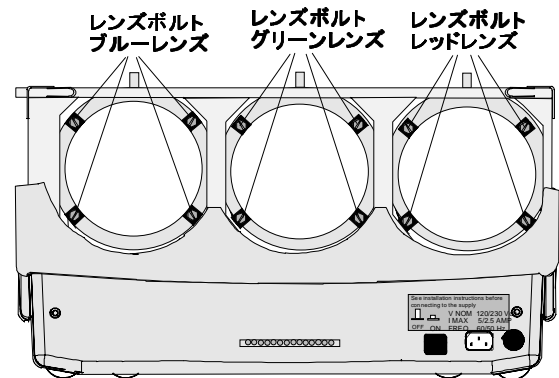
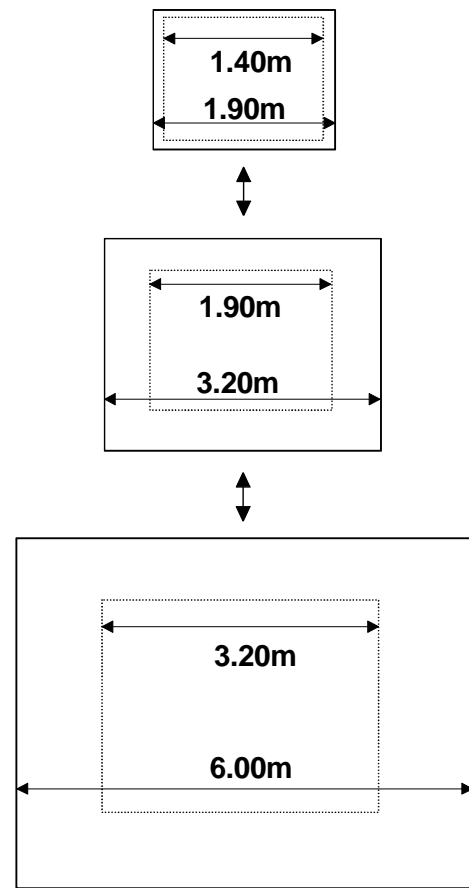
- min. SW: 3.20m
- max. SW: 6.00m

1. トップカバーを開けます。（「セットアップ」の章をご参照下さい）
2. レンズのボルトを緩め（取り外さないで下さい）、前面ユニットの方向にレンズを滑らせ、リングを自由に動かせるようにします。（8mmのレンチかドライバー）

3. シャイムフラグ・リングを正確な位置に押し込みます。（前面図）

- レンジ1: 右へ
- レンジ2: 中央
- レンジ3: 左へ

4. レンズを押し戻して、リングにはまるようにしてからボルト4つで固定します。



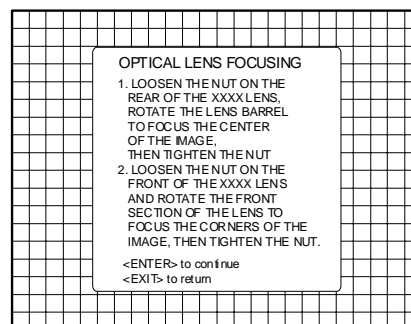
7.5 光学レンズのフォーカスの合わせ方

レンズのフォーカス合わせは、各レンズ個別に行います。フォーカスの調整を順々に行っていくと、その調整を行ったCRTのスイッチがオンになります。

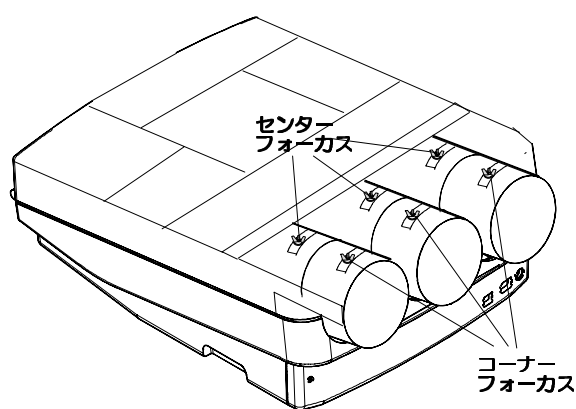
各レンズにはフォーカス調整ネジが2つあります。1つはレンズの後ろに、そしてもう1つは前にあります。映写画像の中心のフォーカスを合わせるには、レンズ後部の蝶ナットを緩めて、レンズの鏡筒を回し、画像の中心のフォーカスがはっきりと合うようにします。映写画像の周辺を合わせるには、レンズ前部の蝶ナットを緩めて、レンズの鏡筒を回し、画像の四隅のフォーカスがはっきりと合うようにします。レンズのフォーカスを合わせるには、この調整を繰り返す必要があるでしょう。

ENTERキーを押して続けます。

ENTER: 引き続きラスタのセンタリングを行う。
EXIT: シャイムフラグ調整に戻ります。
ADJUST: 操作モードに戻ります。



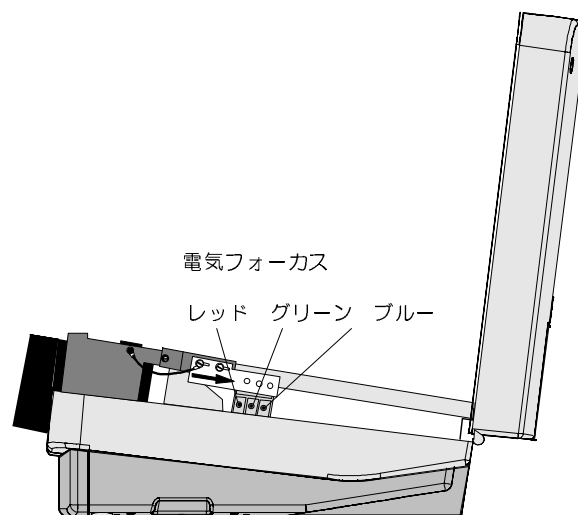
XXXX = 各レッド、グリーン、ブルー



7.6 電気フォーカスの合わせ方

レッド、グリーン、ブルーの電気フォーカスは工場設定です。再調整が必要な場合は、次の手順を踏んで下さい。

1. レンズのフォーカスがきちり合っているか確認して下さい。
2. トップカバーを開けて下さい。
3. レッド、グリーン、ブルーのフォーカス調整は別々に行って、鮮明な画像を得るようにして下さい。



7. 設置調整

7.7 ラスタのセンタリング

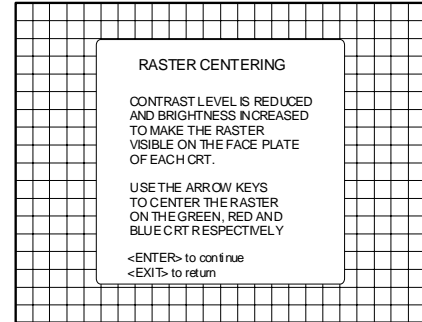
ラスタは各管のCRT管面の中央に来るようにしなければならぬので、レンズの中をのぞき込む必要があります。

注意：

この調整を行っている時の目の不快感を避けるために、コントラストを弱め、徐々に輝度を上げて、ラスタが画像の背後に見えるようにして下さい。

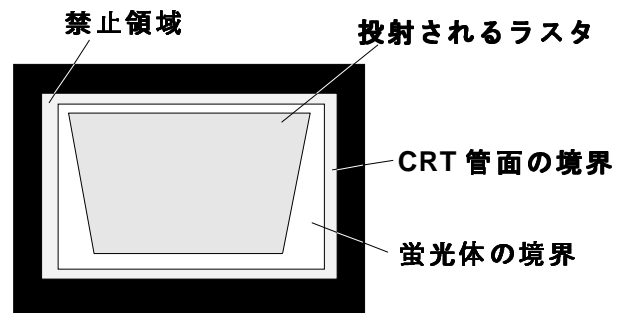
警告

CRTの寿命を最大限に延ばし、CRTの損傷を避けるために、ラスタを蛍光体の境界の外側に移動しないで下さい。



ENTER キーを押すとグリーン CRT 上にラスタが表示されます。

グリーン CRT のレンズをのぞき込んで、コントロール・ディスクでラスタを移動させ、CRT 管面の中央に来るようにします。

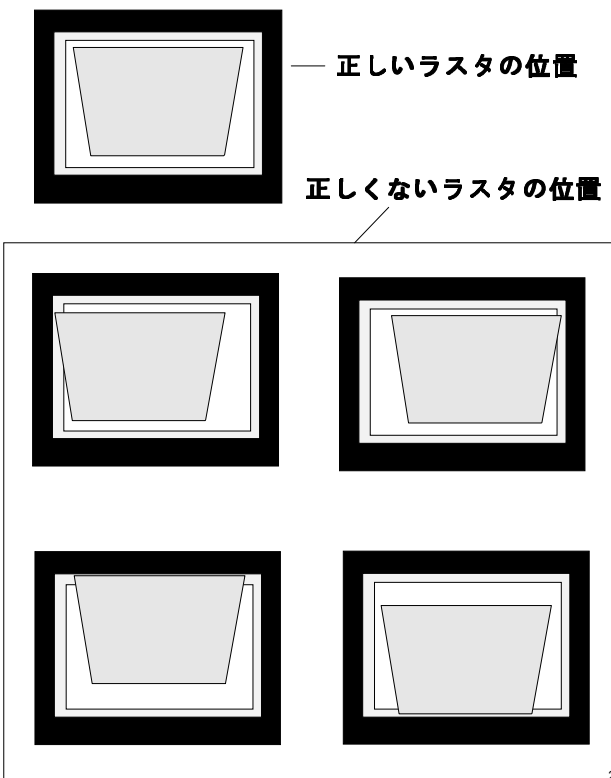


ENTER キーを押して、ラスタがレッド CRT 管面上で動くようにします。コントロール・ディスクでラスタを移動させ、CRT 管面の中央に来るようにします。

ENTER キーを押して、ラスタがブルー CRT 管面上で動くようにします。コントロール・ディスクでラスタを移動させ、CRT 管面の中央に来るようにします。

ENTER キーを押して、続いて CRT 投射角の調整を行います。

ENTER: 続いて CRT 投射角の調整を行います。
EXIT: レンズのフォーカス合わせに戻ります。
ADJUST: 操作モードに戻ります。



7.8 CRT投射角の調整

レッドとブルーのCRTの投射角は、投射画像の希望するサイズによります。

グリーン、レッド、ブルーの中央が一致しない場合は、CRT投射角を調整する必要があります。

シフト修正、あるいはスタティック・コンバーゼンス調整で、この調整不良を修正するようなことは絶対しないで下さい。これらの調整はCRT投射角の調整で修正できない小さなズレを修正するときに行います。

ラスタがCRT管面の中央にきているか確認して下さい。

ENTERキーを押してCRT投射角の調整手順をスタートします。十字線（グリーンとレッド）がスクリーン上に表示されます。

投射角が正確にスクリーン幅SW1に合っています。

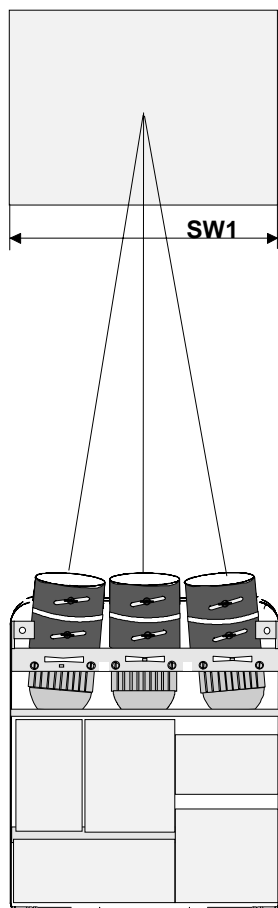


図 1

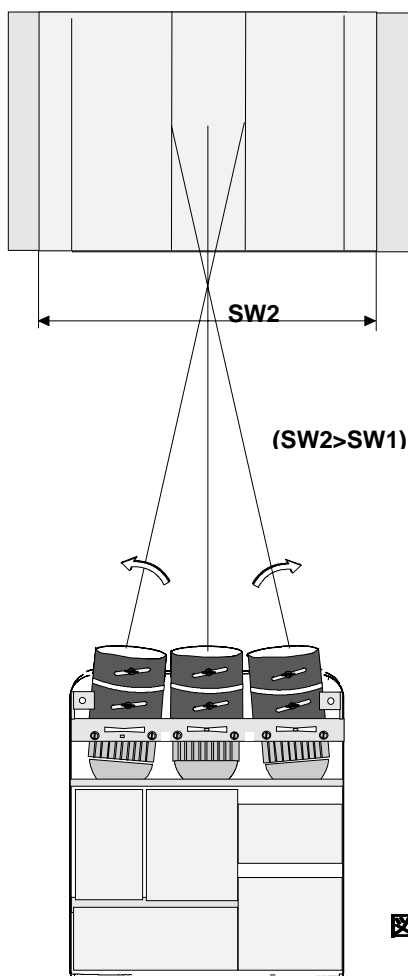
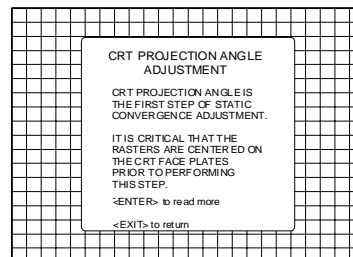


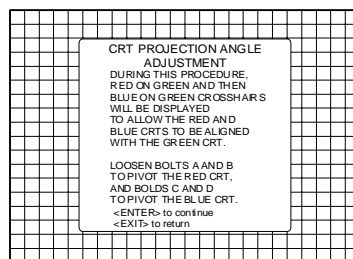
図 2

図1と同様の投射角が新しいスクリーン幅2に合っていない。再調整が必要です。スクリーン幅が変わる場合は、投射角の再調整が必要です。



ENTER: 続いてCRT投射角の調整を行います。

EXIT: ラスタ・シフトの調整に戻ります。



ENTER: 引き続き十字線の調整を行います。

EXIT: ラスタ・シフトの調整に戻ります。

ADJUST: 操作モードに戻ります。

7. 設置調整

六角ネジA、A'、B、B' と上側と下側の固定ラッチを緩めます。

ネジA、B、C、D(M4)：上側の固定ラッチ、7mmのレンチ

ネジA'、B'、C'、D'(M4)：下側の固定ラッチ、7mmのレンチ

これらのネジでレッド管のクーリング・ハウスを固定します。

レッドのCRTを回して、赤色の画像の中心が緑色の画像の中心に合うようにします。

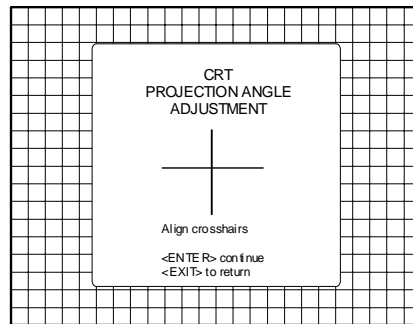
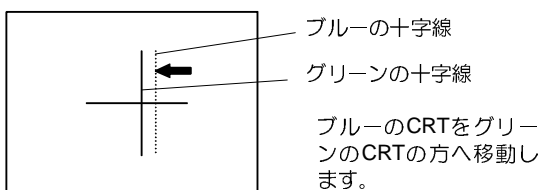
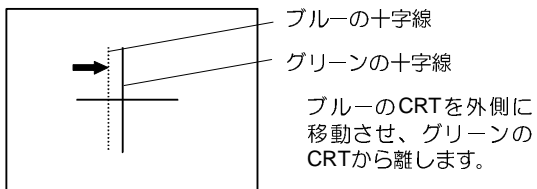
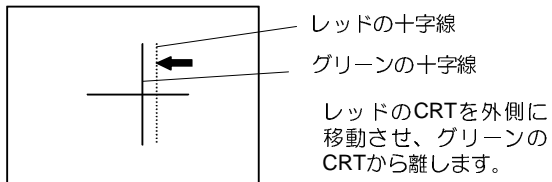
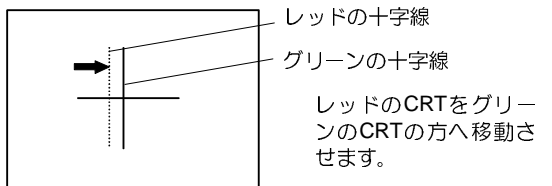
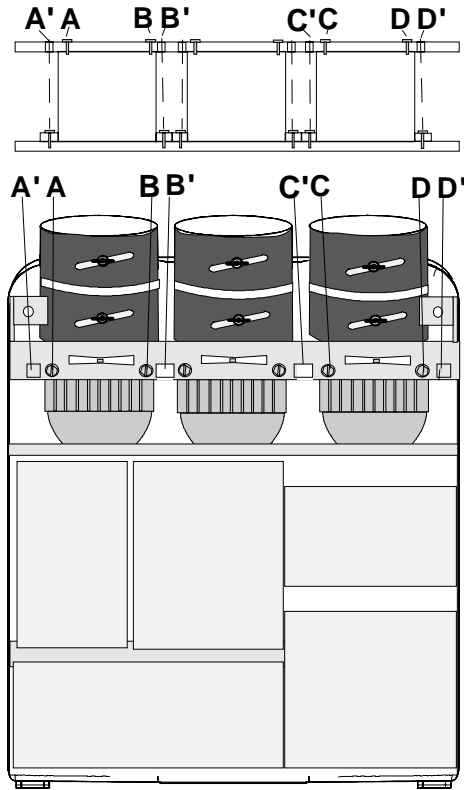
レッドのCRTの角度が正しい場合には、4つのボルトを締めます。

六角ネジC、C'、D、D' と上側と下側の固定ラッチを緩めます。

これらのネジでブルー管のクーリング・ハウスを固定します。

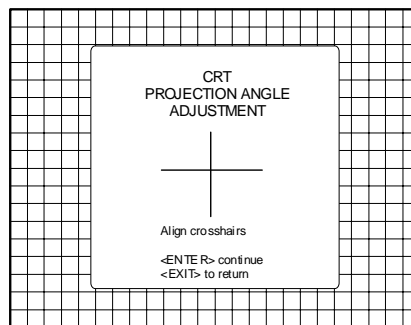
ブルーのCRTを回して、青色の画像の中心が緑色の画像の中心に合うようにします。

ブルーのCRTの角度が正しい場合には、4つのボルトを締めます。



ENTER: ブルーとグリーンの十字線を続けます。

EXIT: CRT投射角調整に戻ります。



ENTER: パス選択メニューを続けます。

EXIT: CRT投射角調整に戻ります。

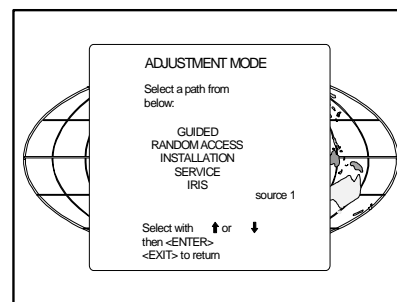
設置調整を終えたら、スクリーン上で「パス選択」メニューに戻ります。
ここで本機のアライメント処理を始めることができます。

次の2つの調整から選べます。

- ガイド付き調整
- ランダムアクセス調整

結果としては、両方の処理とも同じです。この処理に関してのもっと詳しい説明はオーナーズ・マニュアルに記載されています。

以下が画像修正の概要です。



7.9 プロジェクターのアライメント

修正の概要

この修正と処置に関する詳細については、オーナーズ・マニュアルをご参照下さい。（ランダムアクセス調整の章）

レッド、ブルー、グリーン画像のシフト修正

右—左（東—西）の調整

- 垂直センターラインのボウとスキューの調整
- 右と左のキーストーンの調整
- 右と左のボウの調整
- 水平サイズの調整

上—下（北—南）の調整

- 水平センターラインのボウとスキューの調整
- 上部キーストーンの調整
- 上部ボウの調整
- 下部キーストーンの調整
- 上部ボウの調整

サイズ・リニアリティーの調整

- 水平サイズの調整
- 垂直リニアリティーの調整
- 垂直サイズの調整
- 水平フェーズの調整

コンバージェンス調整

- グリーンのみ
- レッド・オン・グリーン
（赤色を緑色に重ね合わせる調整）
- ブルー・オン・グリーン
（青色を緑色に重ね合わせる調整）

ブランキング調整

- 上部—下部、右—左

カラー調整

A

シーリング・マウント CM50

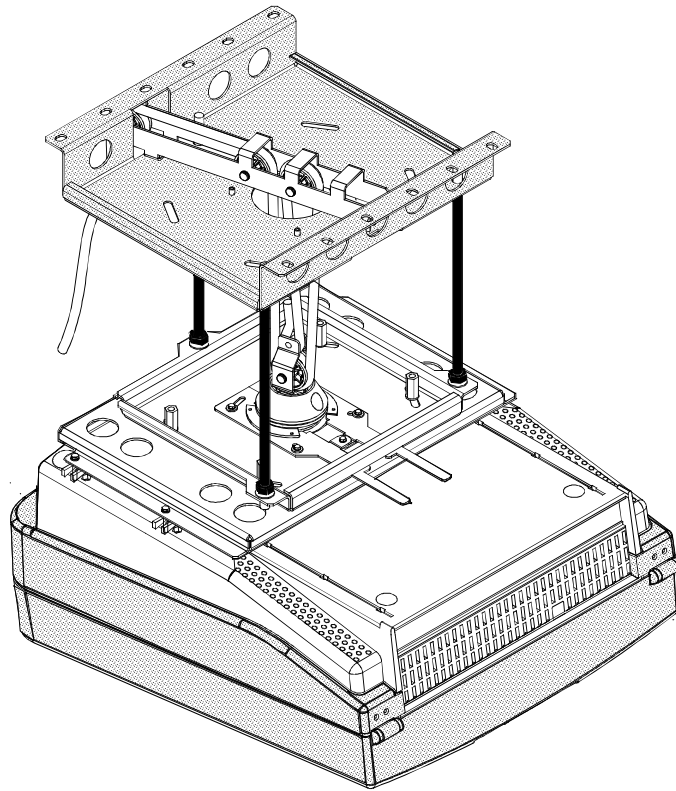
A.1 BARCO700プロジェクター用シーリング・マウント(CM50)

このブーリ付き、あるいはブーリなしのシーリング・マウントでBARCO700プロジェクターを天井に取り付けることができます。

この天井取付金具は、安全、また徹底的な方法で現場の設置要求事項を完全に満たすように設計されています。このシーリング・マウントは特に吊り天井の部屋用に開発されていますが、他の部屋でも天井側取付金具と4つのロッドを取り除けば使うことができます。

注文番号： ブーリ付き R9827990

ブーリなし R9827991



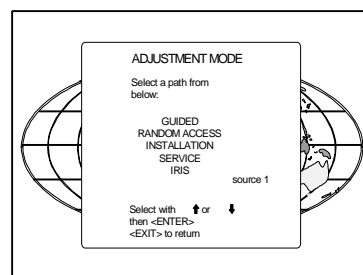
B

G2 調整

B.1 G2調整

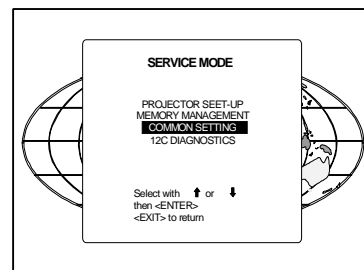
ADJUSTキーを押して'ADJUSTMENT MODE'に入り、'SERVICE'をハイライト表示させます。ENTERキーを押して、'SERVICE MODE'をスタートさせます。

ENTER: 'SERVICE MODE'をスタートします。
EXIT: 操作モードに戻ります。

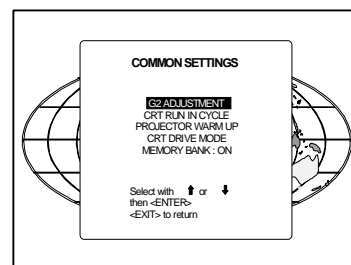


'COMMON SETTINGS'をハイライト表示させて、ENTERキーを押します。

ENTER: 'COMMON SETTINGS'をスタートさせます。
EXIT: 操作モードに戻ります。



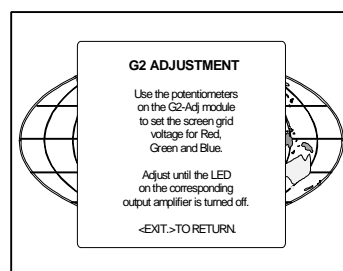
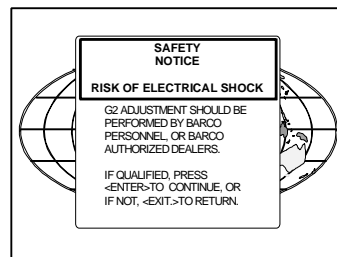
G2調整をハイライト表示させて、ENTERキーを押します。安全上の注意が表示されます。



B. G2 調整

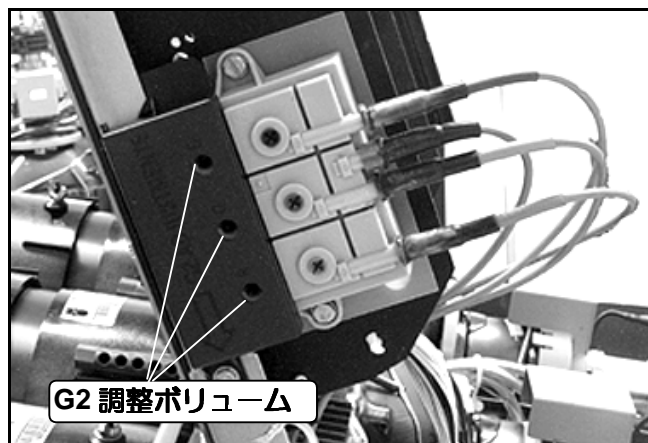
G2調整を続けるか、EXITキーを押して'Service Mode'に戻ります。

ENTERキーを押すと、G2調整メニューが表示されます。



トップカバーを開けると、G2調整ボリュームがあります。これでレッド、ブルー、グリーンのG2を調節します。

制御装置が自動的に輝度とコントラストを上げて、ラスタがテキストの背後に見えるようにします。

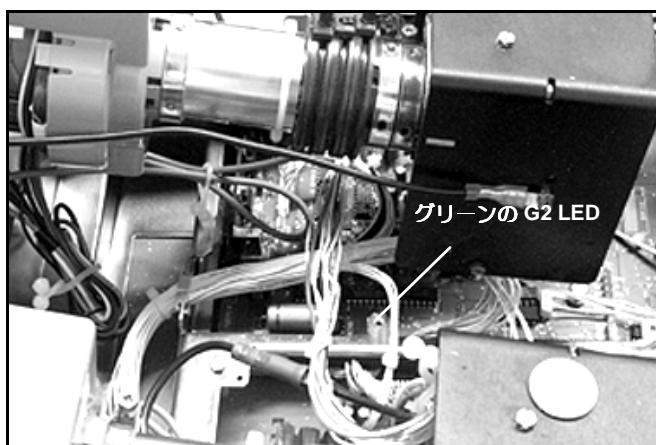


G2調整にアクセスするには、本機のフレームを開けて、「セットアップ」の章に記載されている手順を踏んでください。

各色のLED（緑色）はCRTの下のドライバー・ボードに取り付けられています。

G2調整メニューを選択している時は、この緑色のLEDが消えるはずですが、そうでない場合は、G2を調整する手順に従ってください。

- 上部の電子シャシーの止めネジを緩めて、レンズの方に持ち上げます。
- ドライバーでG2ポテンシオメーターをゆっくりと調節すると、対応するLEDが点灯しなくなります。同様に他の色の調節をしてください。
- 3つのポテンシオメーターが正確に合ったら、上部の電子シャシーを閉じて、止めネジで固定してください。



グリーンLEDの写真。他のLEDは隣にあります。

バルコ株式会社

本 社：

〒171-0033 東京都豊島区高田 3-28-2

東邦生命高田馬場ビル 1階

TEL: 03-5950-8100 (代)

FAX: 03-5950-8108

大阪支社：

〒540-0012 大阪市中央区谷町 2-7-4

谷町スリースリースビル 8階

TEL: 06-6943-8998 (代)

FAX: 06-6943-8997

福岡営業所：

〒812-0014 福岡市博多区比恵町 3-17

フェイスイン博多ビル 1階

TEL: 092-415-2158

FAX: 092-415-2159

名古屋営業所：

〒457-0004 名古屋市南区中江 2-2-7

TEL: 052-823-4222

FAX: 052-823-4223